

手話でつながる社会へ

羽島市立羽島中学校 三年 野田 侑里

「英語で簡単な自己紹介をしてください。」と言われたとき、多くの人が名前や出身地、誕生日などを英語で話すことができると思います。しかし、「手話で簡単な自己紹介をしてください。」と言われて、手話で話すことが出来る人は少ないのではないのでしょうか。私が初めて手話に興味を持ったのは、小学生の頃でした。総合の時間にろう者の方が学校に来てくださって、手話で歌を歌うという内容の授業でした。そのとき私は初めて手話をしました。手話をしてみて、難しいところも沢山あるけどジェスチャーみたいで面白いな、そんな感想を持ったのを覚えています。その授業の中で私が一番印象に残っているのは、手話をする拍手です。手話の拍手は、音がきこえないというろう者の方や、きこえづらい難聴の方でも伝わるように、手を叩いて音を出すのではなく、手首を回転させてひらひらと動かす

のです。それを知ったとき、手話ってすごいと思いました。音や声がきこえなくても人とコミュニケーションがとれる、人と会話する手段は声だけではないのだ、と気がつくことができたのです。

私が、手話を覚えようと思ったのは、最近のことです。ある時SNSを見てみると、ろう者の方が何かを手話で話している動画が目にとまりました。字幕があったので、それを読めば内容を理解することはできました。しかし、手話だけを見ると何を話しているのか全然分かりませんでした。そのとき、もし何かに困っているろう者の方を見かけたときに、助けになりたいと思ってても話の内容が理解できなかつたら、と考えました。考えてみると、手話を覚えて話せるようになりたいという答えにたどり着きました。これが、私が手話を勉強しようと思ったきっかけです。それから私は、まず指文字を覚えられました。手話を勉強するためには最初に指文字を覚えろといい、ということインターネットで調べたからです。指文字を覚えた後には、挨拶に使える手話を覚えられました。少しずつだけ出来る手話が増えていくことには

大きな喜びがありました。まだ会話ができるほどではないけれど、自己紹介ができるくらいまでの手話を覚えることができました。今も私は手話を勉強しています。

手話を勉強していると気づくことがあります。それは、ろう者の方が日常生活で不便なことがあるということです。厚生労働省が行った調査によると、「外出時に電車で事故があった際、放送のみだと分かりづらい。電光掲示板にテロップで流してほしい。」といった意見がありました。他にも、病院などの待ち時間に名前を呼ばれても気づけない、人と話すときには周りの人が何を話しているのか分からず話に入れない、話しかけられても気づくことができず無視していると勘違いされてしまう、ということがあるそうです。このように、ろう者の方は日常生活で不便に感じることもあることに気がつくことができました。

はじめに話したように私は今、手話で話すことのできる人が少ないと思います。確かに、多くの人は日常でろう者の方と関わるのが少ないので、これが理由だ

と思います。しかし、日常で外国人の方とあまり関わることがなくても英語を勉強するように、手話も少しずつ勉強する人が増えていったらいいと思います。そして聞こえる人、聞こえない人、という関係なしに、みんなが誰でもコミュニケーションがとれる、そんな社会になっていったらいいなと願っています。